

第53回 日本人工関節学会

The 53rd Annual Meeting of the Japanese Society for Replacement Arthroplasty

会場 パシフィコ横浜 ノース

共催：第53回日本人工関節学会 /
マイクロポート・オーソペディックス・ジャパン株式会社

Evolution[®]
MEDIAL-PIVOT KNEE SYSTEM



KNEE Luncheon Seminar

セミナー
番号

ランチョンセミナー ⑩ LS10

日程
時間

2/17

12:00~
13:00

会場

第10会場
(G414 + G415)

座長

佐藤 卓 先生

新潟県厚生農業協同組合連合会 新潟医療センター 副院長

演題

Medial-Pivot TKAを選んだ理由 - 臨床医としてTKAに何を求めるか? -

演者

畑山 和久 先生

独立行政法人 地域医療機能推進機構 群馬中央病院 整形外科 医長



【日本整形外科学会教育研修単位】 単位種別：N / 必須分野：[12] / 日整会認定番号：17-2922-018

ランチョンセミナー整理券制

本学会のランチョンセミナーは整理券制です。

配布場所：パシフィコ横浜 ノース 1F 総合受付 / 配布日時：学会WEBサイトをご確認ください。

 MicroPort

KNEE Luncheon Seminar

KNEE

セミナー番号 ランチョンセミナー ⑩ LS10

会場 第10会場 (G414 + G415)

日程 / 時間 2/17(金) 12:00 ~ 13:00



座長

佐藤 卓 先生

新潟県厚生農業協同組合連合会 新潟医療センター 副院長



演題

Medial-Pivot TKAを選んだ理由

-臨床医としてTKAに何を求めるか?-

演者

畑山 和久 先生

独立行政法人 地域医療機能推進機構 群馬中央病院 整形外科 医長

抄録

演者は前十字靭帯再建術や半月板手術など関節鏡手術を行ってきた経験から、約15年にわたりTKAではPCLを温存するCR-TKAを第一選択としてきた。そして良好な臨床成績を得るための靭帯バランスの調整、至適なPCLの緊張、理想的なインプラントの設置方法について検討を行ってきた。しかし、近年多くのインプラントで拘束性を大きくする動きがあり、これによって至適とされるPCLの緊張も変化した。また日本人は欧米人より生来の脛骨後傾角度が大きいことから、メーカーが推奨する後傾設置角度ではPCLの緊張が過剰となる症例も少なくない。こういったことからCR-TKAではすべての患者さんに対して期待した臨床成績が得られないことを経験し、4年前からPS-TKAを第一選択とした。これによって手技は容易となり、安定した臨床成績が得られるようになったものの、大腿骨コンポーネントのBox形状によるPF症状を訴える患者に少なからず遭遇するようになった。そのため、2020年から拘束性の高いインプラント形状によって軽度屈曲位でも良好な前後安定性を獲得できるEVOLUTION® CS (MicroPort)を使用することとなった。EVOLUTION® CSはMedial-Pivot TKAの1つであり、内側関節面はBall in socket形状によってStabilityを、外側関節面はCurved groove形状によってMobilityを得ることで、荷重下において生体膝でみられるMedial-Pivot運動を再現できるインプラントである。その良好な前後安定性とPost cam機構のないPatella friendlyな滑車形状のため、膝蓋骨置換を行わなくとも膝前面痛やcrepitationの発生がほとんどみられないことを経験している。このランチョンレクチャーでは、前述したMedial-Pivot TKAを選択するに至った経緯、その利点、臨床成績、手術手技のポイントについてお話させていただきたいと考えている。

【日本整形外科学会教育研修単位】 単位種別：N / 必須分野：[12] / 日整会認定番号：17-2922-018

ランチョンセミナー整理券制

本学会のランチョンセミナーは整理券制です。

配布場所：パシフィコ横浜ノース 1F 総合受付 / 配布日時：学会WEBサイトをご確認ください。

